「要の石」「隅のかしら(親)石」と訳された

「ローシュ・ピンナー」(רֹאשׁ פִּנָּה)

【新改訳 2017】

Psa 118:22 家を建てる者たちが捨てた石それが**要の石**となった。

1【新改訳改訂 3 】

Psa118:22 家を建てる者たちの捨てた石。それが**礎の石**になった。

【新改訳】

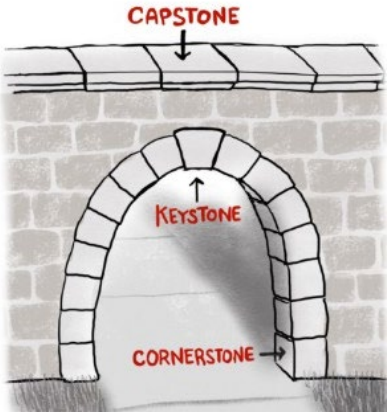
Psa 118:22 家を建てる者たちの捨てた石。それが**礎の石**になった。

【口語訳】

Psa 118:22 家造りらの捨てた石は／**隅のかしら石**となった。

【新共同訳】

Psa 118:22 家を建てる者の退けた石が／**隅の親石**となった



【KJV】

Psa 118:22 The stone which the builders refused is become **the head stone of the corner**.

【NKJV】

Psa 118:22 The stone which the builders rejected Has become **the chief cornerstone.**

【NIV】

Psa 118:22 The stone the builders rejected / has become **the capstone**;

●私たちが悩ませるのは「隅」と訳されたことばのイメージです。確かに、「隅」と訳された「ピンナー」(פִּנָּה)には、四角い箱の四つの角という意味があります。たとえば

【新改訳 2017】出エジプト記 27 章 2 節

その**四隅**の上に角を作る。その角は祭壇から出ているようにし、青銅をその祭壇にかぶせる。

●この場合の「隅」は「四隅」ですから複数です。ところが、詩篇 118 篇の「隅のかしら石」「隅の親石」は**単数**です。「要の石」「礎の石」とも訳されています。その石は「**イェシュア**」を預言したものです。

建築のことは詳しく分かりませんが、木造の場合の家には**大黒柱**があって家全体を支えているように、石造の場合はコーナーストーンを支える要の石が**keystone**、あるいは**the chief cornerstone**なのです。

●この「要の石」については、いろいろな箇所で引用されていますが、

【新改訳 2017】Ⅰペテロの手紙 2 章 6～8 節
6 聖書にこう書いてあるからです。「**見よ、わたしはシオンに、選ばれた石、尊い要石を据える。この方に信頼する者は決して失望させられることがない**。」(イザヤ 28:16)
7 したがってこの石は、信じているあなたがたには尊いものですが、信じていない人々にとっては、「家を建てる者たちが捨てた石、それが**要の石**となった」(詩篇 118:22)のであり、
8 それは「つまずきの石、妨げの岩」なのです。彼らがつまずくのは、みことばに従わないからであり、また、そうなるように定められていたのです。

●イエシュア自身も自分のことを言い表すのに、以詩篇 118 篇 22 節を用いています。

【新改訳 2017】マタイの福音書 21 章 42～44 節
42 イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、聖書に次のようにあるのを読んだことがないのですか。『家を建てる者たちが捨てた石、それが**要の石**となった。これは主がなさったこと。私たちの目には不思議なことだ。』
43 ですから、わたしは言っておきます。神の国はあなたがたから取り去られ、神の国の実を結ぶ民に与えられます。
44 また、**この石の上に落ちる人は粉々に砕かれ、この石が人の上に落ちれば、その人を押しつぶします**。」

【新改訳 2017】詩篇 118 篇 22～23 節
22 家を建てる者たちが捨てた石それが**要の石**となった。
23 これは【主】がなさったこと。私たちの目には不思議なことだ。

●詩篇 118 篇 24 節には「これは【主】が設けられた日。この日を楽しみ喜ぼう。」とあります。したがって、22～23 節は「メシアの復活」を預言している箇所です。「家を建てる者たちが捨てた石」の「家を建てる者たち」とは「ユダヤの指導者たち」のことです。その彼らが「捨てた石」とは、単数の「エヴェン」(אֶבֶן)であり、それは御子イエシュアを象徴しています。

●「捨てた」と訳されたヘブル語は「マーアス」(מָאַס)で、きわめて辛辣な意味をもった語彙です。単に「捨てた」という訳ではこの動詞のもつ意味を正しく伝えていません。「マーアス」(מָאַס)は、忌み嫌う、吐き気を催すほどに嫌で嫌でたまらない、断固として拒絶する、さげすみ、軽蔑して退ける、を意味します。ところがそのような「石」を、神は家(=神と人とが永遠にともに住む家)を建てるためになくてはならない「**要の石**」とされたのです。イエシュアの十字架の死と復活は、人の目には不可解な出来事ですが、神のご計画においてはなくてはならない重要な出来事だと言っているのです。

【新改訳 2017】マタイの福音書 21 章 44 節
「また、**この石**の上に落ちる人は粉々に砕かれ、この石が人の上に落ちれば、その人を押しつぶします。」

●これはどういうことでしょうか。「この石」とは「要の石」です。つまり、正確には「隅の親石」(「ローシュ・ピンナー」רֹאשׁ פִּנָּה)です。「親石」と訳されたヘブル語は「ローシュ」(רֹאשׁ)で「頭、かしら」を意味します。つまり、**神の主権**を意味する言葉です。それは、その石が上から落ちてくれば、その石の重さで人を押しつぶすという意味ではなく、**神の主権に逆らうならば、その人は「粉々に砕かれ、押しつぶ」されるというさばきがもたらされる**ということです。44 節の**「この石の上に落ちる人」も「石が人の上に落ちる」場合も、いずれも、神のさばきを免れ得ないことを意味しています。**後に、クリスチャンを迫害するサウロ(パウロ)に対して、主が「なぜわたしを迫害するのか。とげの付いた棒を蹴るのは、あなたには痛い」(使徒 26:14)と言われました。「とげの付いた棒」とは羊飼いが羊(家畜)を導くために使うもの(伝道者 12:11「知恵のある者たちのことばは突き棒のようなもの」)ですが、それは「**権威**」を象徴しています。それを「蹴る」とは、神の権威に「逆らう」ことを意味します。同様に、「**要**」、すなわち「親・**かしら**」(「ローシュ」רֹאשׁ)に逆らうことも神の権威に逆らうことであり、その結果、神のさばきは避けられないということなのです。